

旭川聾 1日防災学校

自他の命を守る力養う

発達段階に応じた体験活動など

【旭川発】旭川聾学校（門眞義弘校長）は1日、同校で1日防災学校を実施した。写真＝幼稚園、小学部、中学部の幼児児童生徒が参加。各学部の発達段階に応じた体験型プログラムや避難訓練などを通じ、災害時に自分や身近な人の命を守る実践的な力を養った。

同教室は、全国各地で地震や風水害などの自然災害が多発する中、平時からの備えや適切な初動行動を身に付けることを目的に企画。同校が設定する「防災

週間」の中核行事として行われ、前日の事前動画学習や、後日に予定する水害避難訓練、振り返り学習と一体的に展開する。夏休み中には教職員を対象にした救急救命講習会も開くなど、学校全体で防災体制の充実を図っている。

当日は、地震および地震に伴う火災発生を想定した全校避難訓練を実施。その後、消防関係者の協力のもと、煙が充満した空間を通り抜ける「煙体験」を行った。幼児児童生徒たちは視



界が奪われる恐怖感や息苦しさを疑似体験し、煙を吸い込まない姿勢や素早い避難の大切さを肌で学んだ。

続いて、各学部の発達段階に応じた体験活動を展開。幼稚園はカードゲーム「防災タック」を通じて安全確保のポーズを学び、小

学部は段ボールベッドの組み立てや防災かるたに挑戦した。中学部はアルファ化米などの「非常食調理体験」に取り組んだほか、小学部高学年以上の児童生徒は三角巾等を用いた応急処置体験に臨んだ。児童生徒たちは消防車両に触れる機会も得て、各種資機材の役割に理解を深めた。

教育方針の重点として「実物・実体験・本物・優れたもの」に触れる教育活動の推進を掲げる門眞校長は「デジタル教材が普及した現代だからこそ、五感を通じて得る実体験の価値は

高まっている。消防車両や煙、段ボールベッドなどに直接触れた経験を、実感を伴った生きた知識とし、いざという時に主体的に命を守る行動へつなげてほしい」と期待を寄せた。